

安全データシート

1. 化学品および会社情報

製品名	人肌®のゲル原液 透明 硬度0 主剤
会社名	(株)エクシール
住所	岐阜県美濃市大矢田277-1
担当部署	品質保証課
電話番号	0575-33-0872
緊急連絡先	同上
FAX番号	0575-35-1590
整理番号	310001

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性/引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性物質	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉塵)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有毒性

オゾン層への有害性
 水生環境有害性・急性
 水生環境有害性・慢性
 GHSラベル要素
 絵表示
 注意喚起語
 危険有害性情報
 注意書き
 安全対策

分類できない
 分類できない
 該当しない
 なし
 情報なし

使用前に安全データシートを入手すること。
 安全データシートを熟読し理解するまで取り扱わないこと。
 容器を密閉しておくこと。(湿気厳禁)
 可燃性があるので、火気に注意すること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 換気の良い場所でのみ使用すること。
 換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。

救急処置
 眼に入った場合は、水で数分間十分に洗うこと。コンタクトレンズ着用
 していて簡単に外せるのであれば、外して十分に洗浄すること。
 暴露、または暴露の疑いがある場合、医師の診断及び手当を受ける
 こと。
 吸入した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、呼吸し易い姿勢で休息
 させる。気分が悪い場合は、医師の診断及び手当を受けること。
 漏出した場合は、漏出物を回収すること。
 保管
 破棄
 容器を密閉して換気の良い冷暗所で保管すること。
 容器及び内容物は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理
 業者に処理を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別
 化学名

混合物
 ポリオールブレンド

成分	CAS No.	官報公示 整理番号	含有率(%)
ポリオール	非開示	非開示	99.6
その他添加剤	非開示	非開示	0.4

※含有量は代表値であり規格値ではありません。

4. 応急措置

目に入った場合
 直ちに清浄な流水で15分以上洗眼すること、次にコンタクトレンズを
 着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
 目の刺激が続く場合は、速やかに医師の診断/手当を受けること。

皮膚に付着した場合
 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹸で洗うこと。
 皮膚刺激または発疹が生じた場合、速やかに医師の診断/手当を
 受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

吸入した場合
 呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい
 姿勢で休息させること。
 必要な場合、衣服を緩めて人工呼吸を行う。
 呼吸に関する症状が出たとき、気分が悪いときには速やかに医師の
 診断を受けること。

飲み込んだ場合
 口を良くすすぎ、速やかに医師の診断を受けること。
 無理に吐かせないこと。
 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
 また窒息の恐れがあるため吐かせてはならない。

暴露又は暴露の懸念がある場合、
 応急措置をする者の保護
 気分が悪い場合、速やかに医師の診断/手当を受けること。
 保護手袋、保護眼鏡を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤 使ってはならない消火剤 特有の消火方法	粉末、泡、二酸化炭素、噴霧水 棒状の水の使用は火災を拡大し、危険が増す恐れがある。 危険なくできるときは、液体を除去し、周囲の可燃物を除去する。 初期の火災には粉末、二酸化炭素、乾燥砂を用いる。消火は風上から行う。大規模火災の時は、泡を使用して空気を遮断する。
消火を行う者の保護	自給式呼吸器、保護衣服等の保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	作業の際には皮膚に直接触れないように必ず保護具(手袋、保護眼鏡、防毒マスク等)を着用する・風上から作業し、漏出した場所の周囲には、関係者以外の人の立ち入りを禁止する。必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	排水溝に流さない。 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の 方法・機材	少量の場合、吸着剤(おがくず・土・砂・ウェス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウェス、雑巾等でよく拭き取り、大量の水で洗い流す。多量の場合、できるだけ液体を空容器に回収する。この際、着火源となるバキュームポンプは使用してはならない。こぼれた場所を十分に水洗する。但し、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	危険物取扱所で取り扱う。 局所排気装置を設けた場所で、ゴーグル(保護眼鏡)、有機ガス用防毒マスク、耐油性ゴム手袋の保護具を着用する。 静電気対策のために、装置、機器等の設置を確実にを行う。電気機器/換気装置/照明機器/工具は防爆型のものを用いる。
安全取扱い注意事項	ゴーグル(保護眼鏡)、有機ガス用防毒マスク、耐油性ゴム手袋の保護具を着用する。蒸気を吸入しないこと。 火気注意。
接触回避 衛生対策	皮膚に触れたり眼に入らぬように注意する。 この製品を取り扱うときに、喫煙、飲食をしないこと。
保管 技術的対策	直射日光を避ける。危険物貯蔵所に保管する。換気の良い所に保管する。火気、熱源から遠ざけて保管する。
適切な保管条件	容器は密栓し、乾燥した冷暗所に保管する。一度開缶した容器は乾燥窒素(または乾燥空気)で置換する。
安全な容器・包装材料	吸湿混入を防止するため、さびやすい容器を避ける。

8. 暴露防止措置及び保護措置

設備対策	室内の取扱いは、発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。 またその位置を明瞭に表示する。
管理濃度 許容濃度	設定されていない。 ACGIH(2012年版) TLV-TWA 設定されていない。 日本産業衛生学会(2012年版) TLV-TWA 設定されていない。
保護具 呼吸器の保護具 手の保護具 目の保護具	自給式呼吸器、エアーラインマスク、有機ガス用防毒マスク 耐油性保護手袋 ゴーグル、保護眼鏡、防災面等

皮膚及び身体の保護具
適切な衛生対策

耐油性保護衣服、耐油性保護長靴、耐油性前掛け等
取扱い後は手を良く洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	液体
色	極淡黄色
臭い	わずかに臭いがある
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	234℃
発火点	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
密度	約1.02 (20℃)
液粘度	1000~1500mPa.s (20℃)
溶解性	
水	難溶
その他の溶媒	情報なし
オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	常温常圧の条件では安定
危険有害反応可能性	イソシアネートと混合すると発熱反応する。
危険有害分解生成物	燃焼により二酸化炭素、一酸化炭素を生成する。

11. 有害性情報

急性毒性	
急性毒性(経口)	データなし
急性毒性(経皮)	データなし
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷/ 眼刺激性	データなし
皮膚感作性	データなし
呼吸器感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	分類できない。NTP、IARC、ACGIHにおいて分類されていない。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・全身毒性 -単回暴露	データなし
特定標的臓器・全身毒性 -反復暴露	データなし
吸引性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	データなし
水生環境慢性有害性	データなし
生態毒性	データなし
残留性/分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
その他	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	内容物の処理は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器・包装	関連法規及び地方自治体の基準に従い適切に処分する。 空容器を廃棄するときは、内容物を十分に取り除き、洗浄する。 洗浄排水、汚染容器、包装材の処理は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

14. 輸送上の注意

国連分類、国連番号、容器等	該当しない
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、該当法律に定められた運送方法に従うこと。
海上輸送	船舶安全法に従うこと。
航空輸送	航空法に従うこと。
輸送の特定の 安全対策委及び条件	運送に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

15. 適用法令

消防法	危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	第57条の2通知対象物に該当しない。
化審法	第2条第7項 一般化学物質
化学物質排出把握管理 促進法(PRTR法)	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
輸出貿易管理令	輸出貿易管理令別表第1の16項に挙げる貨物に該当する。 輸出の際には、許可申請要件(客観要件、インフォーム要件)に 該当する場合は輸出許可が必要になる。

16. その他

本製品安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS中の注意事項は通常の手配を対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。本製品を推奨用途以外に使用したい場合は、仕様が用途に合致しない場合もありますので事前に弊社に相談してください。また、当社は、SDS記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。更に、本 SDS は、日本国内法規を基準に作成したものです。貴社が、当社該当製品をそのまま、あるいは当社当該製品を配合して、国外に輸出する際には、当該国の法規に適合するかの確認が必要です。

引用文献等

- ・社団法人 日本化学工業協会編 GHS対応ガイドライン 製品安全データシート作成指針(改訂2版) ラベル表示作成指針
- ・ウレタン原料工業会編「ポリウレタン原料について・安全取扱いの手引き」
- ・国際がん研究機関(IARC発がん性リスク一覧表)
- ・自社資料